

2.6.3 コンクリート打設方法

コンクリート打設方法は、コンクリートポンプによる方法とコンクリートバケットによる方法等がある。

前項で述べたように、コンクリートポンプによる方法は配管材を經由してコンクリートをポンプにて圧送する方法であり、コンクリートバケットによる方法はコンクリートを入れたバケットを打設位置までクレーンにより移動、打設する方法である。ポンプ車の性能が向上し、省力化、機械化の方法としてポンプ工法が主流となっている。

バケット工法は従来、小規模コンクリート打設に多く用いられて来たが最近、RC造、SRC造の超高層建築物に大容量のバケットを使用して打設する方法も行われている。

表 2.6.1 ポンプ工法とバケット工法の比較表

項目	ポンプ工法	バケット工法
打設能率	・連続輸送の為、短時間に大量輸送が可能。	・バケット容量に限られる為、時間当たりの打設量が少ない。
コンクリート	・施工性、圧送性の高いコンクリート配合が必要。	・分離しにくい。 ・硬練りコンクリート打設可能。 ・高粘性コンクリート打設可能。
クレーン	・揚重用クレーン不要。	・揚重用のクレーン必要。
その他	・配管のセットが必要。 ・打設時、配管切換、先端ホース移動人員が必要。 ・配管内の残留コンクリートの処理が必要	・バケット内の残留コンクリートの処理及び清掃が容易。